



君
出



「落ち穂拾い記」(81) 「張遷碑」 日下部鳴鶴旧蔵本

図1 日下部鳴鶴



図2 鳴鶴鑑蔵印



東作

八稜硯齋

図3 楊守敬



図4 鳴鶴による朱筆の書き入れ



前回の「鮮于璜碑」の紹介で触れた「張遷碑」の近拓本を神保町で求めたことがある。表紙の破損した剪装本で、みずばらしい状態であった。中身は破損のない折り帖であり、碑陰も揃っていた。表紙を直し、丁寧に確認すると、始めの頁に「東作」の白文印があり（右頁の主図版の3行目「先」字の右下）、これが、明治の近代書壇の雄として活躍した日下部鳴鶴（1838～1922、名は東作、字は子陽、別号に野鶴、鶴叟など）の陽刻印も鳴鶴の所蔵印である（図2）。日下部鳴鶴は、岩谷六郎と共に、明治の初期に清国の公使館の役人として来日した楊守敬（1839～1915、字は惺吾、号は隣蘇。清末の地理・書誌学者、文人（図3））に、金石書学を学び、以前にはほとんど知られることのなかった殷周、秦漢、六朝、隋唐時代の書法等に目を向け、多くの碑帖を学び、独自の書風を打ち立て、現代書壇の礎を築いた人物として知られる。鳴鶴や六郎は、楊守敬と筆談などを用いて、頻繁に交流をした。その折り楊守敬が、清国から持参した所蔵の碑法帖の多くを鳴鶴等に見せたりした。鳴鶴は、自己の書学を回想した「学書経歴談」の中で、実に多くの碑法帖を見せてもらい学んだと述懐している。おそらく楊守敬が帶來した多くの碑帖拓本類は、当時の鳴鶴等に譲渡されたようである。鳴鶴は、十数年後に清国に渡り、書学交流の旅をしている。この鳴鶴旧蔵の張遷碑の拓は、篆書の碑額部分はなく、楊守敬の所蔵を示す所蔵印や題記は見られない。しかし帖の各所の周囲の余白部分の朱筆による書き入れが多く見られる（図4）。古い漢時代の碑であるために碑面が破損し、拓本の文字が不鮮明な部分に注釈を書き入れている。この朱筆の書き入れは、おそらくその書風から鳴鶴自身の書ではなからうか。この原帖を基に臨書し、学ばれた痕跡と推測される。鳴鶴は、多くの碑法帖を学び収蔵した。その中でも王羲之の草書の範本とされる三井本「館本十七帖」は、鳴鶴の蔵本であったが、晩年に家蔵の多くの碑帖拓本と共に三井聴水閣の主である三井高堅に託している。鳴鶴旧蔵の碑帖の多くが、三井に渡り、戦後、三井聴水閣旧蔵の多くの碑法帖が、アメリカのバークレイ大学の図書館に所蔵された。現在、バークレイ大学の拓本データベース <https://digital.lib.berkeley.edu/search?query= rubbing&collection=Digital+Collections&source=network> からネットを通じて、多くの碑法帖を見ることができる。

伊藤滋（書齋名・木鶏室）

書のひろば

理事長 下谷 洋子

書道芸術院秋季展 出品者の作品確認・公募審査他

10月の秋季展は、8月6日に出品作家97人の作品確認を行い、その後毎日アートサロンで行われる現代詩文書出品者の下見も行いました。

続いて20日には、常務理事のほか、

(漢) 西川翠嵐・前田龍雲、(現) 大平
昆峰、(前) 宮崎芳玉先生の7人により、本院審査会員候補の公募作品の審査が行われました。出品点数は昨年より若干減しましたが、秋季菊花賞7名、俊英賞28名を決定しました。今回より、秋季展の開催内容を変更したため、秋季公募は菊花賞のみ陳列、俊英賞は書道芸術誌での掲載になります。入賞者は左記の通りです。

・秋季菊花賞(7名)

漢字	木下 玲窓	日比 康貴
かな	大崎友里絵	
現詩	道庭 白昇	芳賀 志峻
前衛	小山 三葉	道塚 紫音
・秋季俊英賞(28名)		
漢字	新井 赫扇	加藤 雅芳
	北口 松屋	小泉 潤
	佐藤 武美	寺内 宏山
	中嶋佐緒里	平倉 明楓
	松田 綾香	三浦 英樹
	山本 龍堂	



現代詩文書
(小竹先生)

昭和41年審査会員昇格のために始めた本院の単位認定講習会は、今回60回となりました。宿泊会場確保が難しかったこのことですが、昨年同様全部門を学ぶ1泊2日の方式です。

コロナ以降、模索しながらの講習会ですが、今回は昨年オールジャパンの全国代表作家展の会場となった鳥取県立美術館の館長尾崎信一郎氏による講演もあり、参加者にとっては幅広い学書の間となったことと思います。

第60回書道芸術院単位認定講習会 「エースバック未来中心」(鳥取県立倉吉未来中心)にて開催

かな	井上 智美	岡本 凉子
現詩	小暮 真紀	
	秋山 雄心	石澤 青仙
	笹木 蒼風	藤井 花香
	三浦 淡虹	吉田 紫風
	相澤 敦子	藍澤 白桃
	安藤 京子	石田 香
	佐々木藍水	関谷 明美
	高橋 奎媛	八重樫裕香



漢字書 (川島先生)

受講者は地元を中心に50名ほどでしたから、講師陣も丁寧な指導ができたようでした。山陰支局の先生方には大変お世話になりました。

来年は東北総局による仙台での講習会となります。

詳細は次号で、



Japanese Calligraphy Exhibition

SHODO GEIJUTSUIN

22. OCT. 2026 - 6 NOV. 2026

VERNISSAGE THU 22 OCT 2026

REGISTER NOW



DOORS OPEN 17:30

CALLIGRAPHY DEMONSTRATION 18:00

Venue

Japan Information Culture Centre
Rue Van Maerlant 1 1040 Brussels

Opening Hours

10:00-12:00, 13:30-16:00



在ベルギー日本国大使館

EMBASSY OF JAPAN
IN BELGIUM



Japan-Belgium
1866-2026

創立80周年記念 書道芸術院ベルギー展



記念の集合写真

『この作品をとりあげる』26号(S35年2月)より

邑水…構成としては2つのグループになっている。

春蘭…初めの3行はよくない。中盤から後半にかけて調子がよくなってきた。

礼子…終わりのほうは特によくなっている。しかし、調子が上がってきたところでおつりと切れてしまった。

桑風…初めのほうがよほどしっかりしていますよ。なかなかの出来です。

礼子…途中で曲がっているのは不自然だ。

桜舟…それは「あの辺で」という計算をして、初めから意識してかかっているからだ。

峰雲…しかしこの段階(院展無鑑査)

の書き手は意識して書作するのがよいのであって、今の内から自然に書いてまとまるというのはかえっておかしいよ。

桜舟…芸術院展なら特選は確実だよ。

桑風…いやいやどうですかね。

桜舟…漢字の多いところがなかなか

見事だ。転折が素晴らしい。

邑水…よく食い込んでいる。すべて

ていない。

桜舟…感性の良い人ですから、もつ

と古典を研究して生かしたら

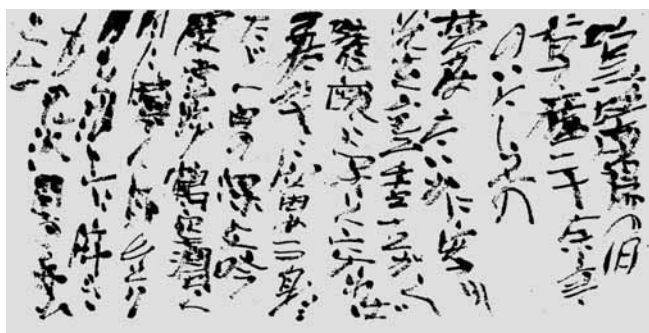
よい。

邑水…1行1行、1字1字になっ

ているのではなく、全体として

書かれているからよいのです

よ。



基礎基本講座

8回にわたりペン字の基礎・基本について勉強をしてきましたが、いよいよ最終回となりました。十分にご承知のこの繰り返しとなりましたが、一つでも新しい発見があれば幸いです。

手書きの文字を美しく書きたいと願うのはいつの時代も万人共通です。誰が見ても美しいと感じる字形、バランスがとれて、流れ(筆脈)のある文字を書くためには、やはり日々の努力しかないと感じます。毎日30分、コツコツ書くのが上達への道と初めに申し上げましたが、書にしてもペンにしても自分はどう表現したいかを考えながら、基礎を踏まえ、枚数を書き込むことが第一でしょう。

一方、自分の思いを相手に伝える手紙。そこには、字形が整った美しさだけではない、その人らしさを感じるということがあります。私がペン字の基礎基本講座を担当させていただくことになり、1回目が掲載された頃、大分のM先生から一冊の雑誌が送られて来ました。「万年筆ライフ」一生活える万年筆を探せ!! というテーマで、ビンテージから新製品まで、それは美しい、世界の万年筆が出ていました。こんなペンを使って、相手の方に気持ち(用件)を伝えることができればどんなに素敵だろう! と思いを馳せました。

文房四宝に多くの種類があるように、万年筆にも本当にたくさん種類があります。ご自分の大切な万年筆で、その時の思いを伝える、書きたい言葉をしたためる、日記を書く、そこにはその時の自分の感情がペンを通して乗せられていくように思います。多忙な現代社会の中にあつては贅沢な時間ですね。白い紙の上に残ったインクの文字は、きつと美しく輝いて見えるでしょう。

美しく整った字形を書くために、楷書・行書・ひらがな・連綿とお話をさせていただきました。漢字とひらがなのバランス等については、毎月掲載されている各先生方の習い方解説や参考作品をご覧になり、勉強をなさってください。

まとめとして、

- ・自分の好きな一本の万年筆に出会う
- ・ペンの持ち方と姿勢のチェック
- ・ペンの弾力を感じながら筆圧に注意する
- ・毎日30分の練習

基礎・基本に加え、自分らしさを最大限に発揮して、楽しみながらこれからもペンを執ってまいりましょう。

書道芸術院

令和の群像 (2026)



第65回記念書道芸術院展「仁」

塚本真仙書

「出会い」



塚本真仙（富山）

初めて筆を手を取ったのは、小学生の時、近所の書道塾でした。その時に褒めていただいたのが好きになったきっかけかもしれません。

社会人になり中断していた書道をもう一度と思い、紹介していただいたのが深松海月先生でした。九成宮體泉銘から始め原本を見て臨書をする大切さを学び、「かな」では漢字と同じように書くことを教わりました。先生の弾むような運筆に魅せられ、時間を忘れて見ていたものです。

そして、いつの間にか当初は存在も知らなかった前衛書の世界に、足を踏み入れることになっていました。

わけも分からず言われるがまま取り組むうちに、少しずつ楽しくなっていくとも思うように筆が動かず難しくもなっていました。

先生が鬼籍に入られた後は、中田睦子先生に、何でも自由にやってみていいよと教えを受け、使ってみたかった長鋒筆にチャレンジしました。筆が動くことを体験できたのはこの頃です。

次に師事した浜谷芳仙先生には、何度も作品を見て頂き指導を受けました。写真の作品は、第65回展で記念賞を頂いた時のものです。何回か見せていくうちに当初からボツを免れて残さ

れていた作品で、最後に「だんだん良く見えてきた」と伝えたところ、やっと気付いたかと破顔されたのが印象に残っています。

展示会場で展示された自分の作品は、とても小さく見え、横目で見ながら足早に通り過ぎたものです。

最近はやややく立ち止まって見る事ができるようになりましたが、会場を歩きながら目を引く作品に出会うと羨ましくなります。生憎センスというものを持ち合わせない私は、同じ場所でぐるぐる回っているように感じますが、最近手持ち前の泥臭さを発揮し開き直って粘り強くいくのもいいかなと思っています。

深松先生、中田先生、浜谷先生、そして津田先生、何度も先生が変わり少し不安定な時期も経験しましたが、たくさん先の達にも恵まれ、（やめるのだけはやめよう）と心に決めました。年齢だけは重ねましたが、いつまでも初心者の気持ちいが抜けず、成長不良のままですが、ご縁に導かれた素晴らしい先生方との出会いこそが宝物だと思います。そして欠片くらは自分の中に吸収できているはずと他力本願なことを考えています。

お蔭様で頼もしい先輩方や書友たち、そして家族にも支えられて続けて来ることができました。これからも楽しみながら精進し、ゆっくりと成長していけたらと思います。



栗原 華泉
（鳥取）



「継続」

この度は、審査会員にご推挙頂きありがとうございます。長きにわたりご指導頂いている引田恵華先生、山陰支局の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。書を諦めないで続けたこと、「継続は力なり」の言葉の意味を改めて実感しています。体力の続く限り精進して参ります。今後ともご指導お願いいたします。（華泉）



芳賀 真桜
（宮城）



「彼方」

今年度より新審査会員に昇格させていただくこととなり、身の引き締まる思いとともに大きな喜びを感じています。本作はスケートリンクで少女が舞う姿に感動し、その気持ちを作品に表現したいと思い白黒の空間づくりを意識し書き上げました。今後は審査会員の自覚を持ち、師・先輩方への感謝を忘れず、より一層精進してまいります。（真桜）



蛭川友香里
（群馬）



「翔」

この度は、審査会員にご推挙いただき、誠にありがとうございます。倉林紅瑠先生ご指導のもと、現代書に関わる者として古典に立脚しながらも常に新しい自分の書を追求してきました。課題も多いですが、今後自分自身の目標を高く据えて、納得できる作品を作りたいと思っています。（友香里）



伊藤 明秋
（長野）



「亀」

この度は、審査会員にご推挙頂き、ありがとうございます。小浜大明先生をはじめ、諸先輩方、良き書友の方々のお蔭だと感謝申し上げます。書の道は厳しく、奥が深く大変ではありますが、ご指導を仰ぎながら、この作品「亀」のように、ゆっくり、一歩、一歩精進して参りたいと思います。（明秋）



特集 第77回 毎日書道展

国立新美術館
7月8日(水)～8月2日(日)
東京都美術館
7月18日(土)～7月24日(金)

第77回毎日書道展総評

下谷 洋子

第77回毎日書道展は、今回展から一般公募の鑑別審査を一本化し、5月のみで未表装のまま鑑・審査を行いました。新しい方式を取り入れましたが、公募の出品点数は昨年同様微減であり、特別問題もなくスムーズに運びました。今回は表彰式後、久しぶりに参加者による懇親会が開かれました。一部の役員を除き立食でしたが、歓喜に満ちた入賞者であふれた会場は、これからも毎日展が前進していくことを感じさせる光景でした。

全出品者を対象とする文部科学大臣賞は、漢字部の柳澤朱筆先生が受賞し、本院からの会員賞は漢字部の森田藤谷さんと近代詩文書部の寺尾京華さんでした。

(その他毎日賞以下は別途掲載)

東京展のイベントは昨年同様でした。理事・監事によるギャラリートークは、本院から小竹石雲先生が室井玄鸞・柳碧蘇先生と7月15日、私は大谷洋峻先生と22日に行いました。

東京展以降の地方展の日程は、次の通りです。



下谷ギャラリートーク



小竹先生ギャラリートーク

- ・四国展 8月19日～23日 愛媛県美術館
- ・東海展 8月25日～30日 愛知県美術館ギャラリー
- ・中国展 8月25日～30日 広島県立美術館
- ・関西展 8月26日～30日 京都市セラ美術館他
- ・東北仙台展 9月11日～16日 せんだいメディアテーク
- ・北海道展 9月23日～27日 札幌市民ギャラリー他
- ・東北山形展 10月28日～11月1日 山形美術館
- ・九州展 11月10日～15日 大分県立美術館

本院は、従来通りの出品者懇親会を毎日展祝賀会終了後、芝パークホテルで行いました。本院らしく受賞者ともども参加の先生方と和気藹々と健闘を称えあいました。

中国展につきましては、今年、本院理事の名越蒼竹先生が実行委員長を務めるため、下谷が担当理事としてお伺いしました。毎日書道展の概要や各部門の特徴などを説明する陳列時のビデオ撮り、開幕式後は役員作品を中心に作品解説、その後顕彰式・祝賀会、翌日は担当理事の席上揮毫会と、盛りだくさんの行事を、名越・小竹先生とご



佳作賞受賞者

一緒に、充実した3日間を過ごして来ました。

また、中国展の今回の特別陳列は、『日下部鳴鶴』で、名越先生の地元の倉吉市の資料を元に、鳴鶴の直筆書簡などが紹介されました。中国展は鳥取、島根、岡山、広島地域ですので、本院会員がたくさんいます。

なおこれまでは、新年早々に開幕される「現代の書 新春展」を2会場で展示して来ましたが、2027年は、「セイコーハウスホール」(旧銀座和光ホール)のみでの開催となります。本院からの来年の出品者は、小竹石雲先生と私のみとなりました。



漢字部 森 田 藤 谷



森 田 藤 谷
(漢字部)

この度は第77回毎日書道展において
会員賞を賜り、心より御礼申し上げます。
身を引き締まる思いでおります。これ
もひとえに、書道芸術院、白扇書道会
の先生方、ご指導いただいている半田
藤扇先生、そしてともに学びあえる書
友のおかげと心より感謝しております。
師との出会いが無ければこの山には登
れなかったとしみじみと感じておりま
す。ここ数年は、入落のない怖さから、
展示状況を想像し「この作品でよいの
か」と自問自答してまいりました。起
承転結や線質を意識し、気負うことな
く自然体で書と向き合い仕上げた作品
です。今回の受賞は、少し険しい次の
山に登るための切符を頂いたものと受
け止めております。新たな景色を見る
ため、今後も精進してまいりますので、
引き続きご指導のほどよろしくお願
い申し上げます。



近代詩文書部 寺 尾 京 華



寺 尾 京 華
(近代詩文書部)

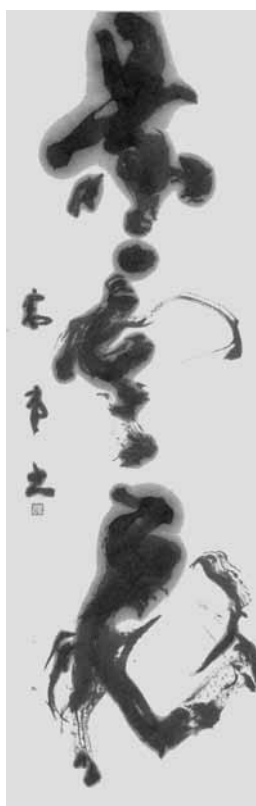
この度は第77回毎日書道展におきま
して、会員賞を賜り心よりお礼申し上
げます。
賞の重さに身の引き締まる思いをし
ております。これもひとえに書道芸術
院の先生方、常にご指導を頂いていま
す小竹石雲先生のお陰と、心より感謝
いたしております。
今回の作品の句から、美しい自然の
風景とともに荘厳さ、険しさを感じま
した。それをどのように表現すればよ
いか悩み、少しでも作者の思いが入っ
た作品にと考えながら筆をとりました。
今後自分なりに、書の道を一步一
歩、前向きに歩んでまいりたいと思っ
ております。そして、微力ながら次世
代に書の楽しさを伝えることができた
らと願っております。
今後ともご指導ご鞭撻のほどよろし
くお願い申し上げます。

毎日賞



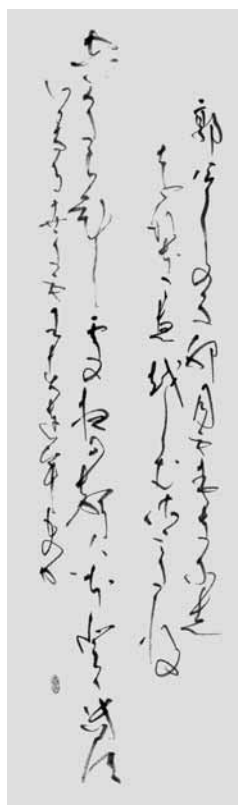
漢字部Ⅱ類

種谷悠輝



漢字部Ⅱ類

金延憲市



かな部Ⅱ類

熊谷翔



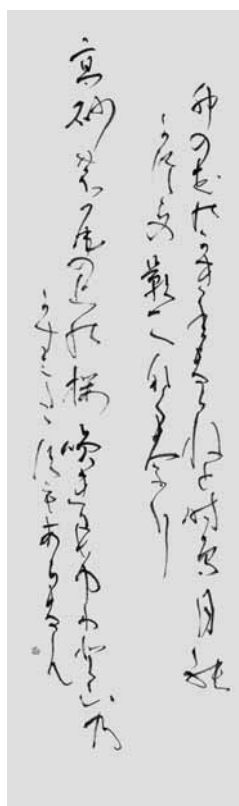
漢字部Ⅱ類

小木曾泰香

毎日賞



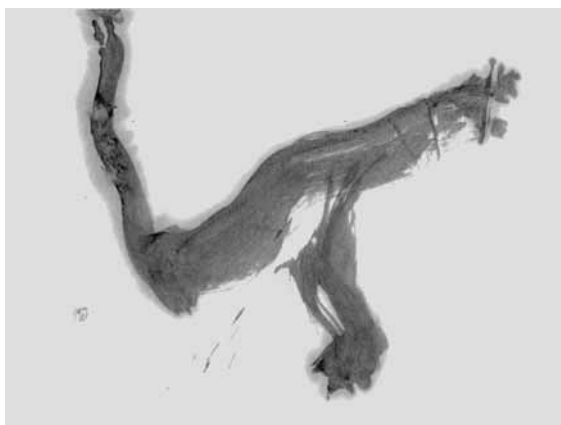
近代詩文書部 神谷雲卿



かな部II類 加藤万丈



近代詩文書部 山内松吾



大字書部 富原扇水



前衛書部 廣 田 紫



前衛書部 吉田恵弦

第77回展書道芸術院出品数（公募・会友）

書道芸術院	漢字		かな		近代 詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
本年度	171	205	97	142	373	165	0	13	323	1,489
76回展	172	185	117	129	398	164	0	17	324	1,506
増減	- 1	20	- 20	13	- 25	1	0	- 4	- 1	- 17

第77回展書道芸術院受賞者数

賞名	漢字		かな		近代 詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
会 員 賞	1				1					2
毎 日 賞		3		2	2	1			2	10
秀 作 賞	2	3	1	2	6	4			4	22
佳 作 賞	4	7	2	5	10	6			13	47
U23毎日賞										
U23新鋭賞				1					1	2
U23奨励賞		1			1	1				3
合 計	6	15	3	10	20	12			20	86

秀作賞受賞者

・漢字部（Ⅰ類）

猪原美風 池田大方

・漢字部（Ⅱ類）

佐伯哲哉 河合鈴逕 本郷合恵

・かな部（Ⅰ類）

井上智美

・かな部（Ⅱ類）

清水由紀子 富澤白雲

・近代詩文書部

坂本薺花 阿部玲雅 穴戸雲水

浅野黄扇 高橋真弓 人見華泉

・大字書部

本多江燕 古川彩逕 曾我晋平

西村達也

・前衛書部

石黒和喜 酒井花雪 阿部邑里

田村紅紗

佳作賞受賞者

・漢字部（Ⅰ類）

坂本泉翠 小川華林 中島恵華

生田郷円

・漢字部（Ⅱ類）

上田琴秀 小林舟驪 堀田白扇

上岡まゆみ 三浦英樹 高橋清琳

小泉潤

・かな部（Ⅰ類）

大崎香織 境野和子

・かな部（Ⅱ類）

生方由美子 濱田陽一 矢口登江

田畑寿美子 小林溪姫

・近代詩文書部

鈴木青杏 松尾香溪 齋藤恭子

青木凉逕 奥川麗流 廣瀬登美枝

西田和美 秋山雄心 密本閑月

甲谷鳳梨

・大字書部

向井翠窓 河岡北秀 寺前華扇

齋藤泉遙 正木美奈子 柄山明珠

・前衛書部

木原天泣 田中星花 寺島洋子

須賀澤一起 坂田翠江 下沢博美

岸直美 松尾有希子 早坂萌香

長澤紅苑 高島洸蓮 高橋碧舟

佐藤由美子

U23奨励賞

・漢字部（Ⅱ類） 小木曾由奈

・近代詩文書部 鈴木綾菜

・大字書部 浅野颯介

U23新鋭賞

・かな部（Ⅱ類） 都丸花凜

・前衛書部 村井利喜



毎日書道展会員賞（副賞）
碇屏「起筆の一筆」（宮瀬富之 作）



U23新鋭賞（副賞）



U23奨励賞（副賞）



秀作賞（副賞）文鎮「筆跡」
（宮瀬富之 監修）



佳作賞（副賞）筆置「波おき」
（宮瀬富之 監修）



毎日賞（副賞）
筆筒「起筆の一跡」
（宮瀬富之 監修）

礼器碑（後漢156年）③

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

漢字研究部臨書課題

特別研究部臨書課題

Ⅱ（半紙普通判・縦使用）左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

Ⅱ（A大作の部 毎日展覧会員・会費サイズ以内、2×6尺、全紙も可）
（B小品の部 半切以上半切以内、全紙以内も可）
（A・B縦横自由）当該古典の左記掲載部分以外も可。

※掲載図版85%縮小（原寸にするには118%拡大）



嵩高五百。／穎川長社王／玄君真二百。

（三井記念美術館蔵）

〈解説〉今月の課題は、

碑陽の最後のあたりの部分である。主文が終わり、人と寄付額の数字が連続して出て来る。文字は、前2回よりもやや小さめで、線も細身であるが、伸びやかな感じが強くなっているようだ。前半部に出ている3字を示すので、比較されたい。

（編集部）



13

漢字規定 初段以上 【10月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

名越蒼竹選書

有志者

事竟成

蒼竹

有志者事竟成
よみ（志こころ有ある者ものは事こと竟ついにに成なる）

書体Ⅱ自由

習い方解説 (6)

名越蒼竹

有志者事竟成（後漢書）

（志こころ有ある者ものは事こと竟ついにに成なる）

志さえあればいつかはついにその事を成し遂げる。

固い決心のイメージを六朝楷書の書風に事寄せしました。

と言っても全面的な北魏風ではなく、野趣を少なく表現しています。漢は法家思想で政治を行った秦を倒して、儒家思想による政治を打ち立て、そのイメージは作法や伝統・礼儀を大切にすることもからです。そのイメージから明治の目下部鳴鶴の書風を取り入れました。

楊守敬の来日を機に「骨力を失っていた」当時の日本の書が一変したとされていますが、鳴鶴の書は強くて荒々しさはあまり見せていません。元武士としての教養がそうさせたのでしょうか。

習い方解説 (3)

前田 龍雲

水天一碧

〔四字熟語〕

(水天一碧)

水平線を見ると一面に青く澄み、海と空の境目がわからないほど溶け合う、美しく雄大な景色。

大阪の雑踏の中に住んでいると、なかなか目にすることの無い光景です。

東晋の王羲之や唐の褚遂良などの行書を参考にしました。この時代は通行体である行草書が中心で貴族文化が盛んであったため上品で柔らかい書風が多く見受けられます。撰文内容にふさわしくなるよう清々しい雰囲気を書けたらとの思いで取り組みました。無理矢理ねじ込んだような書線にならないよう雄大な心根を持ち、しかし弱く見えないよう運筆するにはまだまだ精進しなければならないと再認識いたしました。

羊毛中毫筆を使用しました。



水天一碧

よみ

(水天一碧)

書体Ⅱ行書または楷書

↑ (編集部より)

前号予告にて書体について誤りがありました。お詫びして訂正致します。

かな規定 初段以上 【10月15日締めきり】 用紙 半紙普通判(料紙可)

下谷 洋子 選書

習い方解説 (3)

下谷 洋子

ひとりねの寝^ねざめの床^このさむし
ろに涙^{なみだ}催^{もよほ}すきりぎりすかな

〔西行〕山家集

秋の夜の冷たい寢床で一人目を覚ました際、きりぎりすの鳴き声に涙を誘われたことだ。

また昇級試験の季節です。臨書はよくできていても、創作が今ひとつで昇格しなかった人も出てきます。今ひとつとは何でしょう。

・紙面に対して文字が小さい

・短歌1首を半紙判に書くには線が細すぎて貧弱

・かな連綿の基本的ルールを把握していない

主にこの3つがポイントになります。かなは流れるように連綿されてこそ、美しさを発揮します。流れるような美しさには、文字の組合せや行の幅、疎密などルールがあります。以前、基礎講座で述べましたので、あらためて確認してみてください。

今回は、前半の3行の行の長さ・行間の広狭に特に注意しましょう。

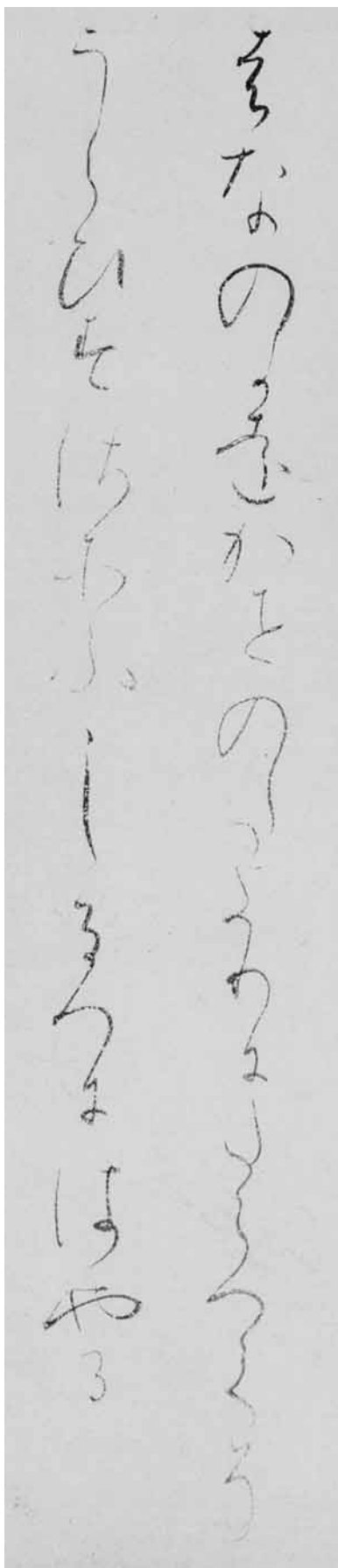
よみ方 ひとりね(年)の寝(ね)さめ(免)の床(とこ)の(農)さ(沙)む(无)しろに(二)

涙(那三多)催(もよほ)すき(支)り(利)きり(く)す(春)か(可)な

創作

*料紙は半紙版(33.0×24.5㎝)を使用しましょう。半懷紙は上記のサイズに切つて下さい。

かな規定 秀級以下 【10月15日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)
掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書可。〈注〉署名は「〇〇臨」。高野切第一種 (掲載写真原寸)



よみ方

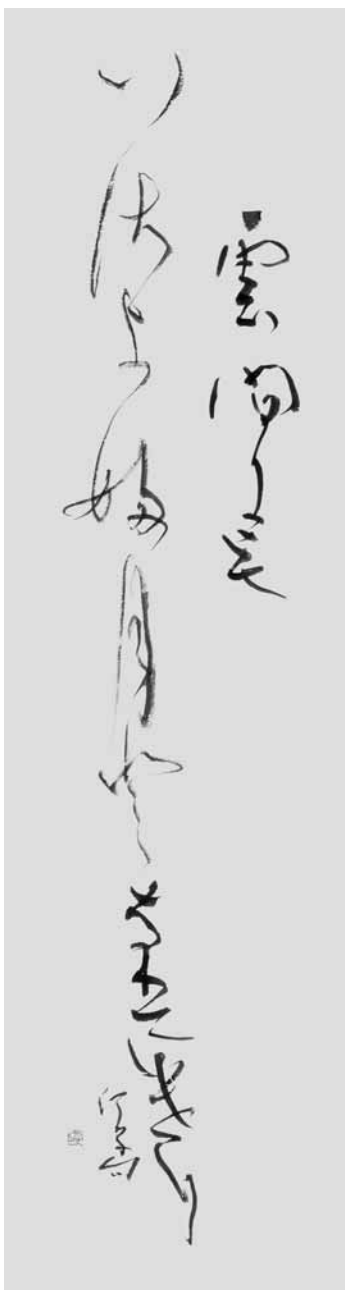
はな^者のか^可を^達か^世ぜ^多の^利た^尔より^多に^久た^岳ぐ^曾へてぞ
うぐひす^佐さ^所そ^ふしる^べには^やる

歌意

咲き匂う梅の花の香りを風という使者に託して、うぐいすを誘い出す手段にしてみよう。
(梅は咲いたのにうぐいすはまだ鳴かない。風を使者として梅の香りを届けたら、きつと
鳴き出すに違いない、という内容)

かな条幅規定 【10月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

見越雪枝選書



よみ方 雲間に(尔)も(毛)いさ(佐)よふ(婦)月と(登)な(奈)り(利)に(二)け(遣)り

※タテ形式に限る

創作

習い方解説 (3)

見越雪枝

雲間^{くも}にもいざよふ月^{つき}となり
けり
〔稲畑汀子〕

雲に隠れつつ少しづつ現われる
十六夜の月を表現。

今月の「十六夜の月」は9月25
日だそうです。

紙面のバランスにも配慮しまし
う。いざよふの4文字は細い線
ですが4字連綿になっています。

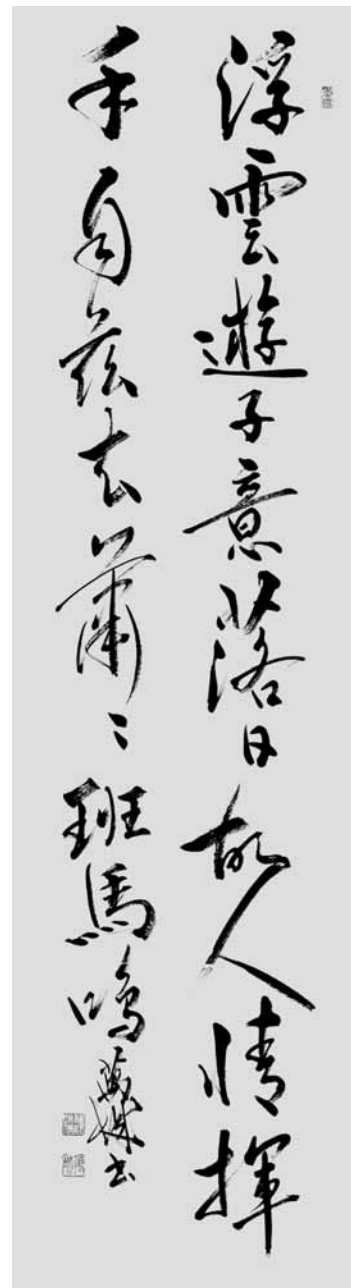
墨継ぎは「な」です。

漢字条幅規定 初段以上 【10月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書

習い方解説 (6)

種谷萬城



浮雲遊子意 落日故人情 揮手自茲去 蕭蕭班馬鳴
(浮雲遊子の意 落日故人の情 手を揮って茲より去れば 蕭蕭として班馬鳴く)

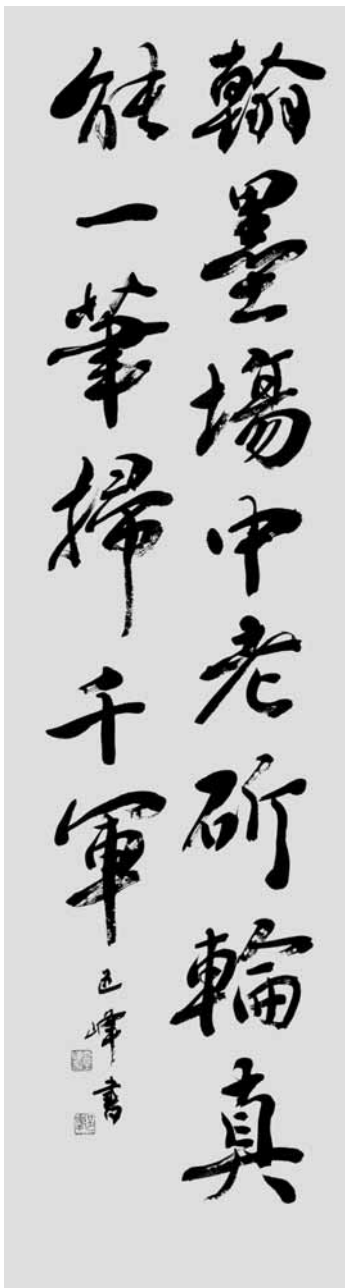
書体Ⅱ自由

漢字条幅規定 秀級以下 【10月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

大平邑峰選書

習い方解説 (6)

大平邑峰



翰墨場中老斫輪 真能一筆掃千軍
(翰墨場中老いて輪を斫れば 真に能く一筆千軍を掃う)

書体Ⅱ自由

今月は、李白詩『送友人』の後半4句を行草書で書きました。比較的標準的な字形を用い、全体の調和を図りました。字書で文字調べをして草稿を練る場合、どのような字形を選択するかが肝要です。目についた特異な字形ばかりを組み合わせると、目新しい作品になりますが、全体感に破綻が生じやすいので、変化と統一のバランスを考慮して草稿を作りましょう。

※タテ形式に限る

この期は今月で最後となりました。半切2行書きでは、七言二句(14文字)位の文字数が書きやすいかと思えます。1行目に8文字、2行目に6文字を配置し、最後に落款でちょうど収まります。この字は王羲之や褚遂良の書にあったなど頭と浮かべながら、一氣に書き通すことにしました。

力を尽くしてこそ事は成る。
ただ願うばかりでは叶わず。
眠れる獅子の口元に獲物が
身を投じることなど無いがゆえ。
ナラヤナ著、処世の教えより美泉書

書体＝自由

◇用紙 ハガキ大(14.8×10 cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

【注意】

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10 cm)を守って下さい。

習い方解説 (3)

川村 美泉

再びインドへ・・・。

今月は、インドの古典的寓話集『ヒトーパデーシャ』(ためになる教え、しあわせをもたらす教え、の意)の一節です。

昔インドの徳の高い王が、ある大学者に自分の3人の王子の教育を頼んだ。そこで学者は王子たちに寓話を聞かせて処世の学を説く...

寓話と言えば『イソップ物語』は誰もが知っている有名なものです。『うさぎとかめ』『北風と太陽』『オオカミ少年』等、子どもたちに読み聞かせたことを思い出します。未来を創る子どもたちに寄せる思いは普遍的で、どの時代、どの国であっても変わらないものだと思えます。

呼吸のリズムを整え、心を込めて丁寧に書いてください。上級の方は、多彩な表現に取り組んでいただけたらと思います。

力を尽くしてこそ事は成る。

ただ願うばかりでは叶わず。

眠れる獅子の口元に獲物が

身を投じることなど無いがゆえ。

ナラヤナ著「処世の教えより」〇〇書

クラス会のご案内有難うございます
今年は二十回を記念して一泊旅行の
ことで楽しみになっておりましてが急
に母が入院しまして欠席させて
いただきます皆様によりくお伝
えください

大平 邑峰

クラス会のご案内有難うございます／今年は二十回を記念して一泊旅行との／ことで楽しみにしておりましたが急に母が入院しましたため欠席させて頂いたでございます 皆様によりくお伝／えください／氏名

書体＝自由

(掲載手本85%に縮小。原寸にするには117%拡大)

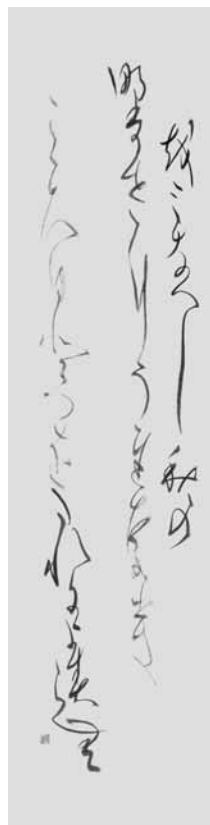
- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の氏名(号)を
- ◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇所定の出品券を作品の右下に貼る

漢字部 師範 勝 鳳晶

悠然とした趣きの中の巧みな筆さばきが魅力的。安定した造形と柔軟で温厚な表現に好感が持てる。
◎漢字部総評 草書作が多くみられたが、木簡の表現の変化を楽しく拝見できた。様々な書風にさらに挑戦してほしい。
(藤扇評)

かな条幅部 準師範 色川 穂麗

行間の響き合いと流れるようなリズムが魅力的。墨色の変化が作品を立体的に見せて美しい。



漢字条幅部 師範 津留 煌水

軽快なリズムで疎密、軽重、曲直の変化が自然で巧妙。完成度の高い洗練された作品。



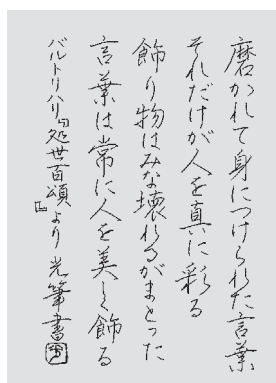
◎漢字条幅部総評 上級の篆隸作品に誤字が見られた。字書を丁寧に調べて欲しい。行草作品には熟達の手量が見えた。
(萬城評)



◎かな条幅部総評 書き出しの漢字の大きい作品が多かった。墨量の変化が少なく渴筆部の文字の大小と行間に考慮を要す。
(峰子評)

ペン字部 師範 小幡 光筆

美しい行書体。漢字かなの見事な調和と行間余白が相まって、爽快で品格あふれる作品となった。
◎ペン字部総評 行書の作品は特に行間をやや広めに取ることを意識すると全体が引き締まり、流れのある作品になります。
(孝子評)



現代詩文書部 特選 西川 藤象

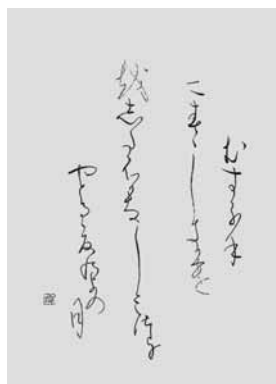
氣宇雄大で穂先を突き刺した渴筆の勁い線は見事。落款まで氣迫が籠もり魂に響く躍動的な作。

◎現代詩文書部総評 書は線が命。穂先の使い方を研究する志を持って欲しい。
(恵鳳評)



かな部 師範 山口 雪翠

丁寧な運筆で墨色もよく安定した作。「月」のかすれ具合が越えよび2行目と美しく響き合っている。
◎かな部総評 潤渇が適切な作品は遠近感が自然に表れ安心して見られる。そこに線の強さと速度変化が加われば大成功。
(希雲評)



前衛書部 特選 磯村 四流

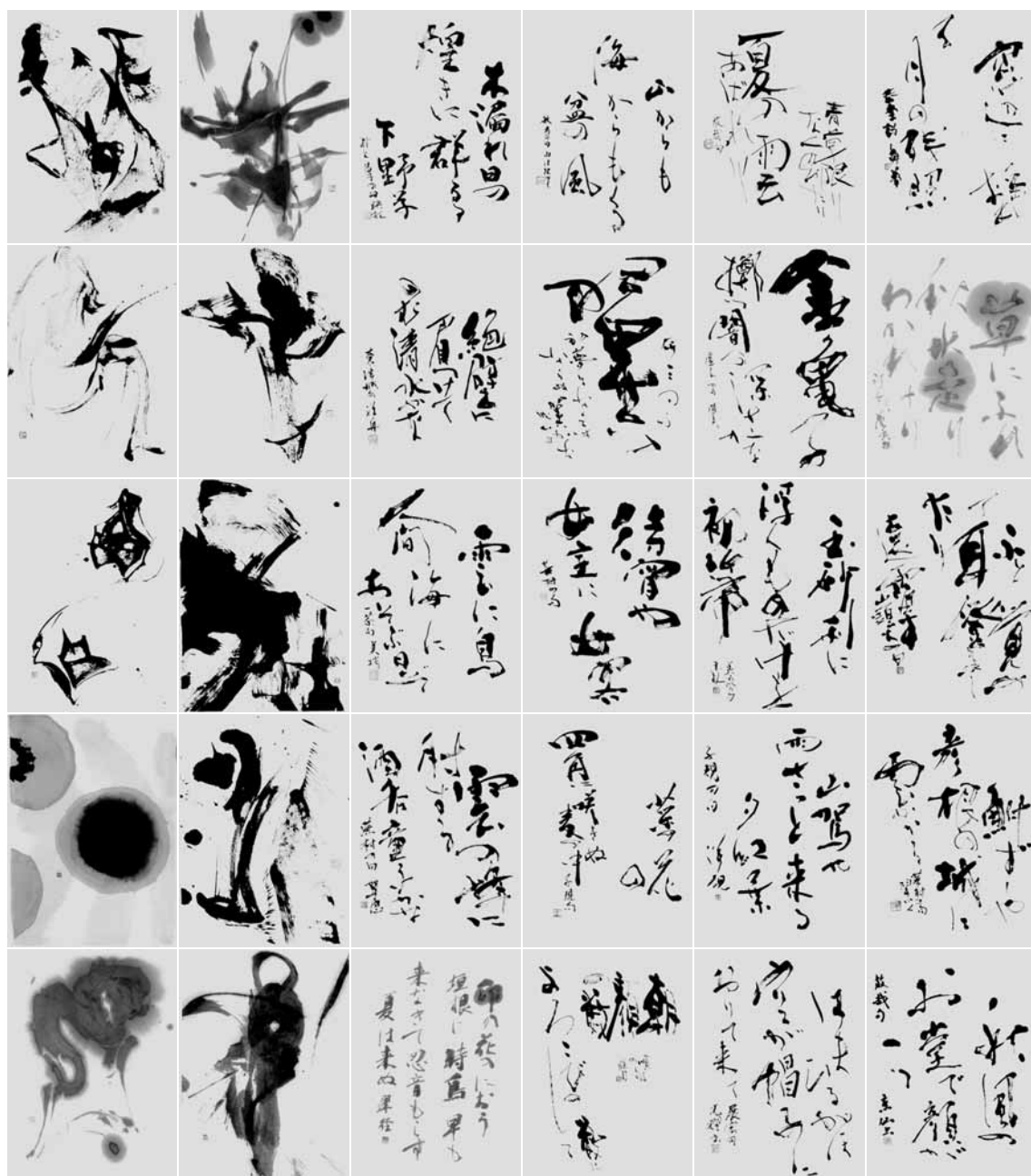
淡・濃墨で構成される立体的な造形。上部の飛沫を生かした魅力的な作品で心に響く。

◎前衛書部総評 意表を突く挑戦作が多く、前衛書の面白さを改めて実感。
(紅雪評)



前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



山房 墨色の工夫と滲みが光る
汀泉 筆庄の強さが際立つ作
麗芳 大きな世界観が魅力的
えり奈 右側の鋭い飛沫が生きた
初江 宿墨が美しく穏やかな作
松雲 側筆を巧みに生かした作
和子 筆の可能性を追求した作
菜園 二つの造形が響き呼応す
加代子 挑戦作。滲みの可能性は
和香 茶墨の宿墨の可能性挑戦

選評 千葉紅雪

舞夢 空中の動き抜群心に響く
花香 滲みと渴筆で诗情あふれる
真理 瞬間的な運筆で律動的
翠 多彩で勁い線質見事
京仙 呼吸の長い運筆诗情あり
閑紅 長鋒の細線切れ味抜群
素朴 筆意の線を生む技術大
洋硯 一貫した運筆に気迫あり
光耀 息が長く温雅で心和む
由佳理 行の揺れで余白美生む
成山 自然体の書美の究極か
彩香 洗練された構成実力派
萌佳 温厚の中にも軽快潜む
雅邦 温雅な線が余白に響く
映紅 巧みな構成余白活きる
祥舟 銜い無く自然の流れ佳
美梢 多様な線質余白効果的
翠恵 明るく緩急の変化見事
翠徑 渴筆の線勁く気迫迸る
墨色美しく诗情豊か

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 種谷萬城 平川峰子 田村鄭雲 山口仙草

前衛書 (趙雲)

吉田恵弦

「パッション」



吉田恵弦書

135×35cm

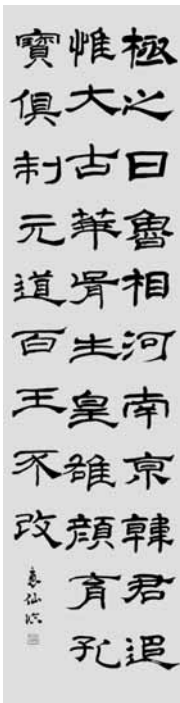
◆大胆な3つの墨の塊が互いに引きつけ合い、現代感に溢れた造形が展開され、紙面に輝きを与えている。

(仙草評)

臨書 (澄春)

土屋恵仙

「礼器碑」



土屋恵仙臨

135×35cm

◆安定した字形と章法で全体が統一され、整っている。波磔が鋭く引き抜かれ冴えがある。礼器碑の凛とした趣きを捉えた臨書作品。

(萬城評)

漢字 (麗澤)

富田瑤翠

「杜甫詩」



富田瑤翠書

135×35cm

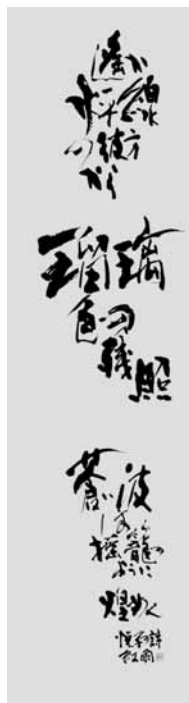
◆漢簡の躍動感に溢れた線の表情が魅力的な作。「何」「是」字の収筆部が特に良い。落款部分に大小、太細の変化が加わると一層上質になっただろう。

(萬城評)

現代詩文書 (植松)

梅田紅雨

「蒼い響き」



梅田紅雨書

135×35cm

◆詩を4つのブロックに配し、文章の響きを考慮しながら動きに変化をつけている。2ブロック目を大胆に書き、全体の表情を引き締めている。

(鄭雲評)

小品の部

〈小品の部〉

創作の部(44点)

漢字 1 6点

かな 1 4点

現代 1 20点

篆刻 1 1点

前衛 1 13点

臨書の部(29点)

漢字 1 29点

かな 1 0点

総出品点数

73点

〈特選候補者〉

(創作の部)

翠湖 田中 翠恵

伊呂 齋藤 杏邑

青蓮 佐々木 藍水

玄穹 田中 一葉

京橋 北嶋 青湖

一弦 波谷 蛭江

炎佳 伊藤 紫炎

前衛

大拙 佐藤 陽子

蓮紅 本田 美雪

秀水 坂井 初江

篆刻

蒼原 庄司 櫻空

(臨書の部)

漢字

澄春 新行 内 芳蘭

京橋 豊嶋 勝

堂光 佐藤 光耀

澄春 深澤 佳月

K S 佐藤 一義

八街 相原 雅心

八街 宮原 雅翔

墨縁 井戸端 琉景

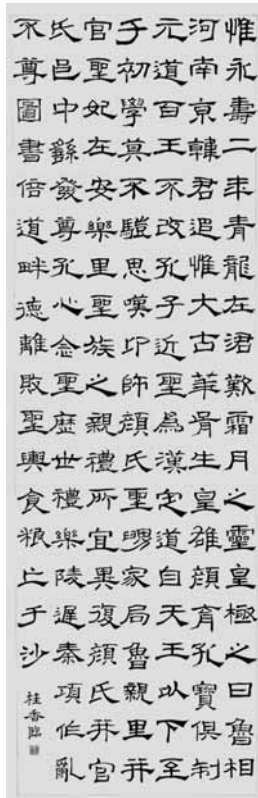


阿部 邑里 書

61×182cm

◆躍動感あふれる横作品。墨量の変化が適切で明解な作品となっている。安心して鑑賞できる、充実した空間が広がっていて見事。
(仙草評)

臨書 (千葉) 佐藤桂香 「礼器碑」

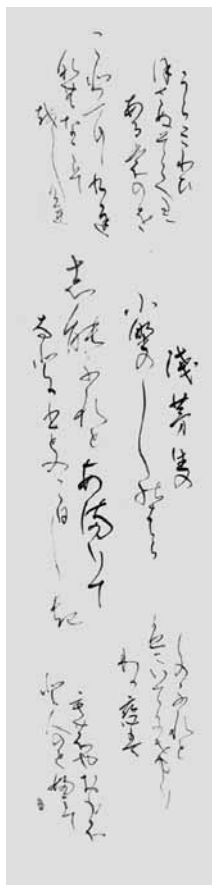


佐藤桂香 臨

175×55cm

◆一点一画の細部に配慮した、原本に忠実な臨書。礼器碑の繊細で変化に富んだ線の表情が丁寧に再現された上質な作品。
(萬城評)

かな (奥田) 小林溪姫 「うらみわび」



小林溪姫 書

240×60cm

◆3首の和歌を上手に構成している。字粒の大きさの変化を考慮しながら、行間と流れが呼吸して魅力ある作品になっている。
(峰子評)

現代詩文書 (八戸) 市川紫泉 「亜門里三の詩」



市川紫泉 書

173×60cm

◆懐ろの大きな大字の動きと呼吸の変化が見事。細字を大字側に寄り添わせたことで、左側に面白い空間を生んだ。新鮮な作。
(鄭雲評)

〈大作の部〉

創作の部(45点)

漢字 3点

かな 7点

現代 12点

前衛 23点

臨書の部(10点)

漢字 9点

かな 1点

総出品点数

55点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

誠和 石崎 甘雨

〔漢字〕

奥田 生駒 久華

奥田 藤井 清美

〔現代詩〕

大雲 奥村 美楓

大雲 奥村 成山

宗宛 白井 真理

華祥 小泉 潤

〔前衛〕

玄穹 平塚 汀泉

白珠 石澤 徳子

蓮紅 大友 紅蓉

紅瑠 小島 遼平

白珠 川田 遼平

月華 三浦 倫果

月華 三浦 詩歩

光風 廣田 紫

〔臨書の部〕

大雲 舟實 恵美

華祥 玉淵 良章

紅瑠 金井 どり

〔かな〕

菊月 新井 恵子

漢字研究部
(礼器碑)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



玉 淵 良 章

漢字研究部 特選 玉 淵 良 章

作品を目にした瞬間に印象深く迫ってくるものがありました。圧のかかった線、吊り上げた線と緩急自在な運筆で響きの高い秀作です。文字に対する観察力と表現力がすぐれていて臨書にとりくむ真摯な姿勢が窺えます。

◎漢字研究部総評

礼器碑は隷書を学ぶにおいては特徴を捉えやすく最適ですが、難度の高いものです。具

体的には細線ですが、複雑な動きをしています。例えば蔵鋒（筆先を線の中央に通す）で書かれていたり、波磔にも大きな特徴が見られたりします。臨書するにあたってはそのようなところに留意しながら特徴をまねることから始めるとよいでしょう。いつの時代にどのような目的で書かれたのか背景を知ることが大切です。良い学書になることを願っています。



睦 有 良 佐 紅 育
里 代 子 霞 嗣
月 恵 子 子 子 子

純 麗 莉 美 敦 珠
奈 流 子 梢 子 葉
子 子 子 子 子

佳 百 香 智 紅 公
子 子 子 子 子
子 子 子 子 子

友 雅 麗 藍 風 恵
香 邦 芳 水 晶 美
里 子 子 子 子 子

審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字32点・かな16点)

選評 半田 藤扇・下谷 洋子
漢字秀逸作



田中 岳寿



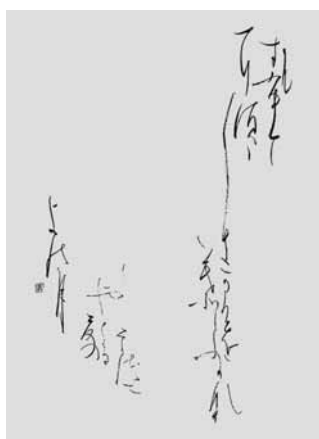
板橋 雅邦



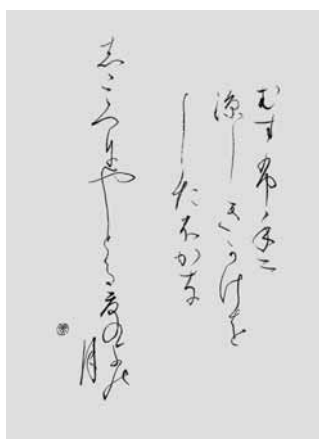
千葉 紅雪



小林 舟驥



佐藤 一義



奥村 美楓

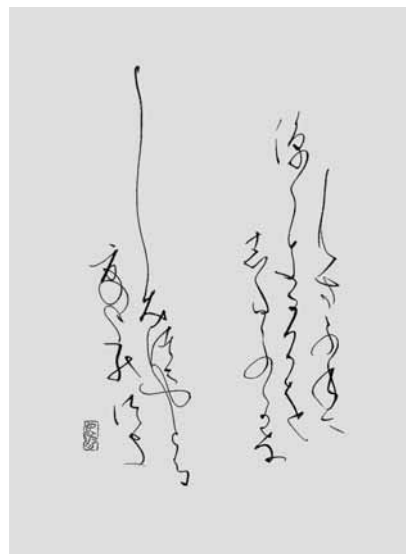
〈次点・50音順〉

柿沼 彩香



木簡の魅力を思う存分に発揮し、紙面の中で自由闊達に筆が舞い踊る。伸びやかでかつ、軽快なリズムが上手に響きあって安定した入魂の作となった。
(藤扇評)

かな秀逸作



石崎 甘雨

一見香紙切の雰囲気を出して、よくまとめました。字形のみならず疎密感や文字の広狭など、香紙の理に適っています。さらに軽快な線に緊張感を！
(洋子評)

書道芸術院秋季展

●書道芸術院役員 ●審査会員選抜 ●審査会員大作 ●審査会員候補秋季菊花賞

会期=令和8年10月1日(木)～4日(日)

10時～18時
(最終日は17時迄)

会場=セントラルミュージアム銀座

東京都中央区銀座3-9-11
紙パルプ会館5F ☎03-3546-5855

〈併催〉書道芸術院現代詩文書展 (24名出品)

会期=令和8年10月1日(木)～3日(土)

10時～18時
(最終日は13時迄)

会場=アートサロン毎日

東京都千代田区一ツ橋1-1-1
パレスサイドビル1F ☎03-3212-2918

主催=(公財)書道芸術院 理事長 下谷 洋子

後援=毎日新聞社 (公社)全日本書道連盟 (一財)毎日書道会

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7 東神田プラザビル3F ☎03(3862)1954

書道芸術財団役員臨書作品掲載について

本院80周年を迎えるにあたり、これまで本院の歩みと発展を支えてこられた諸先生方の貴重な臨書作品を収録し、後世へ伝える記念事業を進めております。その一環として、本展開催に先立ちまして、現在の財団役員の先生方による臨書作品と、それぞれの臨書に対する思いを、数回にわたり『書道芸術』誌上で紹介いたします。(次ページに1回目を掲載。来月以降の掲載は不定期の連載になる予定です。)

臨書は、古典を深く学び、その精神と技法を受け継ぎながら、自らの表現を拓く創作への架け橋です。本企画を通して、古典研究の意義をあらためて見つめ直し、創作をより深く豊かなものへと導く契機となることを願っております。さらに、未来を担う若き書人にとって、古典への敬意と創造への志を育む一助となれば幸いです。

書道芸術院理事長 下谷 洋子

古典教則本 創作へのヒント
形臨からの応用・発展例 (1)

顔真卿『争座位稿』辻元大雲

①臨書



②臨書



③臨書



④倣書



《解説》

唐時代の顔真卿の書「三稿」は原稿として下書きされた率意の書である。中でも争座位稿は長文で消し込んだ部分や行間の書き込みなど自然な変化と息遣いまで感じられるところに魅力がある。

①「満而不溢」はやや豊満な筆遣いの部分で顔真卿らしい力強さとリズム感到に溢れている点に注目し臨書してみた。

②「人臣之極地」は文字の大小と太細の変化が際立っている箇所。やや細身の鋭い線からダイナミックな重量感ある線質への変化が魅力的である。落款までバランスよくまとめたい。羊毛中長鋒を使用。兼毫筆など硬めの筆でも試みたい。

③のように半切にも臨書してみた。争座位稿は、やや字間が詰まり、行間が広く取られている傾向がある。

④の倣書「衣食足知榮辱」(管子)は、生活が楽になれば世の浮き沈みも心にかくれるという意。顔真卿行書の変化極まりないリズム、太細、自然な運筆を心して表現したい。潤渴の変化、墨色、筆の開閉の変化も楽しみながら臨書や倣書してみてほしい。

第61回 竹扇会書展

- 会期 令和8年10月2日(金)～4日(日)
午前10時～午後4時30分
(4日(日)のみ午後1時まで)
- 会場 大阪産業創造館3階
マーケットプラザ
〒541-0053
大阪府大阪市中央区本町1-4-5
- 主催 竹扇会 (会長) 小伏小扇
- 後援 (公財)書道芸術院
毎日新聞社
(一財)毎日書道会

和田敏典 歌集「岬の灯り」出版記念



第一期 令和八年十月十日(土)～十二日(月) 十時～十七時
会場 ナリサワカルチャーギャラリー
石巻市駅前北通り二丁目12-127 ☎0225-9514165

第二期 令和八年十月十四日(水)～二十七日(火) 十時～十七時
会場 道の駅 硯上の里おがつ
石巻市雄勝町下雄勝2-117 ☎0225-2516844

主催 和田敏典・玄穹社(千葉蒼玄) 共催 硯上の里おがつ

2026 春洋会書展

- 会期 令和8年10月22日(木)～24日(土)
22日 午後1時～午後6時
23日 午前10時～午後6時
24日 午前10時～午後5時
- 会場 大阪産業創造館3階
マーケットプラザ
〒541-0053
大阪府大阪市中央区本町1-4-5
- 主催 春洋会 (会長) 小林琴水
- 後援 (公財)書道芸術院
(一財)毎日新聞社

第3回 藍書道会書展

会期：令和8年10月2日(金)～10月4日(日)
(午前9時30分～午後5時 最終日 午後4時まで)
会場：コラッセふくしま 3F 企画展示室
〒960-8053 福島市三河南町1-20

それぞれの思いをこめた作品を制作いたしました
ご高覧くださいますようお願い申し上げます
御祝い等はご辞退申し上げます

浅野 紅夏	荒川佳世子	五十嵐杏僊
石井 祐香	遠藤 紅芝	塩澤 美紅
嶋原 朋子	尖戸 紅梅	庄司 紅邨
高野 樓蘭	高橋 千代	武田 久美
武田 径花	田中 紅葉	田中 耶衣
丹藤 津陽	中村 徳子	中山 保仁
新田 幸湖	橋本 紅霞	長谷川千峰
羽田 陽子	平井 智子	北條 智香
武藤 公子	矢木 右子	八巻 恵佳

- 後援 福島市教育委員会 若草会 毎日新聞社 福島民報社
福島民友新聞社 (公財)書道芸術院 玉松会
福島県書道協会
- 主催 藍書道会
〒960-8141 福島市渡利字沼ノ町26-6 庄司方 (TEL 024-522-7093)

特別昇段級試験の漢文解説

◎漢字部第二種・第三種

漢字条幅部第一種

杜甫「倦夜」(けんや)

竹涼^二臥内^一 野月滿^二庭隅^一

重露成^二涓滴^一 稀星^二乍有無^一

暗飛螢自照 水宿鳥相呼

萬事干戈裏 空悲清夜徂

(竹涼臥内を侵し 野月庭隅に満つ

重露涓滴を成し 稀星乍ち有無

暗きに飛ぶ螢は自ら照らし 水に

宿る鳥は相呼ぶ 万事干戈の裏

空しく悲しむ清夜の徂(く)を)

↓竹林を通る涼しい風が寢床に入っ

くると、野を照らす月の光が庭一面

に満ちあふれる。葉の上に重なる露

はしずくとなって落ち、夜空にまば

らに光る星は消えたり見えたりする。

暗闇に飛ぶ螢は自らを照らし、水辺

に宿る鳥は友を呼び合って鳴く。今

ここにあるもの全ては、戦乱の中で

存在している。清らかな夜は静かに

更けてゆくが、戦争が終わらないこ

とを思えば、悲しさは増すばかり…。

(解説)

764年の6月、杜甫は友人の嚴武の

推薦で檢校工部外郎の官職を得た。

しかし、友人の部下であることが面

白くなかったのだろう、翌年の正月

に辞職する。己れの自尊心を守るた

めに生活の安定を捨てることになっ

た。唐王朝を混乱に陥れた安史の乱

は763年に終息していたが、チベット

が都の長安に侵入するなど、平和と

はほど遠い状態は続いていた。この

時はちょうどその頃の作である。

「倦夜」は心が重く寝つけない夜の意

秋の長い夜を眠ることもできず、

心を澄ます。風の音、螢の光、星の

またたき、鳥の声などが心に入っ

くる。美しい夜の世界であるが、心

は安まらない。政治は乱れ、自らの

生活の先も見えない。杜甫の憂いの

深さが最後の2句に表れている。

◎漢字条幅部第二種

邵雍「觀盛化吟」(盛化を觀るの吟)

紛紛五代亂離間 一旦雲開復見^レ天

草木百年新雨露 車書萬里舊山川

……後半略……

(紛紛たる五代乱離の間 一旦雲開

けて復た天を見る

草木百年新雨露 車書万里旧山川)

↓乱れた五代は戦乱は続いたが、ある

朝雲が晴れ青天を見ることになった。

それから百年、草木も新しい雨露に

よみがえり、山や川も元通りになり、

車輪の幅も万里にわたって統一され、

文字もまた同様である。

(解説)

『水滸伝』の冒頭に引用され、有

名になった詩。

作者・邵雍は宋代の学者で易学の

大家。宋が建国された50年後に生ま

れた彼の一生は北宋の盛時に重なる。

「宋朝の徳を觀照する」という意味

が題のこの詩は、百年の太平の世を

ことほぐ。第2句は英雄・趙匡胤

が天下を統一したことの比喩である。

省略した第5句以降で官人の正装と

庭園での演奏会の素晴らしさに触れ、

「鶯花日高くして眠りを害うこと無

し」の第8句で締めている。手放し

の太平謳歌の作である。

◎ペン字部

楊万里「夏夜追涼」(夏夜涼を追う)

夜熱依然午熱同 開門小立月明中

竹深樹密蟲鳴處 時有微涼不是風

(夜熱依然として午熱に同じ 門を

開いて小立す月明の中

竹深く樹密なり虫鳴く処 時に微

涼有り是れ風ならず)

↓夜になっても日中の暑さは変わらず

続いている。門を出て月明かりの下

で立ちどまり涼んでみる。竹林は暗

く樹木が茂るその下で虫が鳴く。そ

の声に耳を澄ますと、何となく涼しい気がした。しかし、風が吹いてきたわけではない。

(解説)

楊万里は南宋の詩人であるが、まるで現代の日本の夏を歌ったような詩(七言絶句)である。夜になっても涼しい風が吹いてこない、というのはまさに日本の現状である。800年前の中国の詩人の感覚を実感を伴って現代人が理解できるというのは、何か不思議な感じがする。

さて、この詩、聴覚で涼しさを感じるというのは定番であるが、最終句の言葉の続け方は一流の詩人の才を感じさせる。

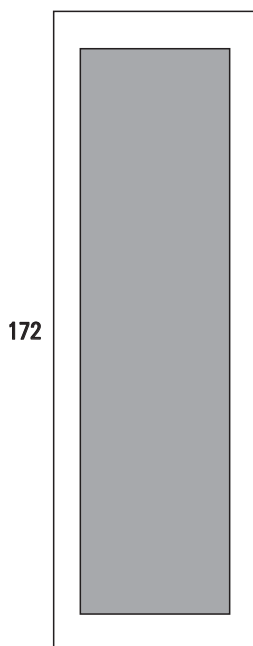


第80回記念書道芸術院展の表装について（無鑑査、一般公募）

前回展と同様に無鑑査と一般公募において、縦作品のみ額装と軸装の選択を可能とします。ご出品の際には、サイズ等ご確認をお願いいたします。

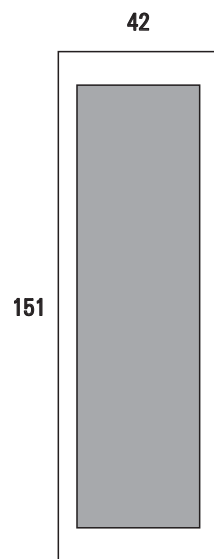
●作品サイズ（額装と軸装ともに同じ仕上がり寸法）

= 無鑑査 (M) =
51



※まくり（本紙）は
縦167×横46以内

= 一般公募 (O) =



※まくり（本紙）は
縦136×横35以内

書展

第8回

みちのくの書人達展

佐藤 菜扇

会期 令和8年7月13日(月)

18日(土)

会場 東京交通会館

ち溢れていました。

坂本先生は年に2〜3回、下北→青森→北上→気仙沼→塩釜→古川→仙台に出向いて指導されているそうです。600km以上の走行距離に驚きましたが、指導して巡ることが楽しいと満面の笑みでおっしゃっていました。

今回、坂本先生は方言詩人(津軽弁)高橋恭造の詩「生活 祝言の晩」を優しいタッチの筆づかいで書かれ、淡墨で野線を加えモダンな表装をされていました。2年前の個展と同様に作品の下には坂本先生の朗読が聞けるQRコードがありました。今回皆さんに聞いて頂きたく、この紙面に貼って頂きました。是非、お聞きください。

2年後、いろいろの会は創立40周年を迎え、第9回展をセントラルミュージアム銀座で開催されると伺いました。その時を楽しみにしております。



第40回記念

書泉会展を終えて

勝山 初美

会期 令和8年8月2日(日)

5日(水)

会場 高崎シティギャラリー

年々厳しさを増す酷暑の中8月2日〜5日まで、第40回記念書泉会展(出品者145名、作品179点)を高崎シティギャラリーで開催しました。

書泉会展は2000年から東京と群馬で交互に開催し、今年は東雲先生没後31年にあたり群馬での記念展となりました。広い第一展示室を3つのコーナーに分け、入口正面に東雲先生と洋子先生の作品が並び、周りを役員作品、次到大作4点、社中代表8点、最後は会員です。各展示コーナーには洋子先生の

作品が展示され人集りができていました。役員は創作のほか、原寸臨書か拡大臨書の2点を、社中代表は軸装で揃え展示しました。皆さんそれぞれ個性を発揮しバラエティに豊んだ作品群となりました。また広い会場ならではの初心者による貼り混ぜも彩りを加えていました。

予備室には長年副会長として活躍されてきた朝倉春江顧問98歳が、「白寿に向かつて」と題した作品17点を展示し、来場された方々に称賛されておりました。今回展の企画の一つ、中でも拡大臨書の表現は難しく、これからも研鑽を積み創作へと繋げていきたいと思っています。

下谷先生の細部に渡るご指導と会員の協力により好評を頂き盛会のうちに終えることができました。

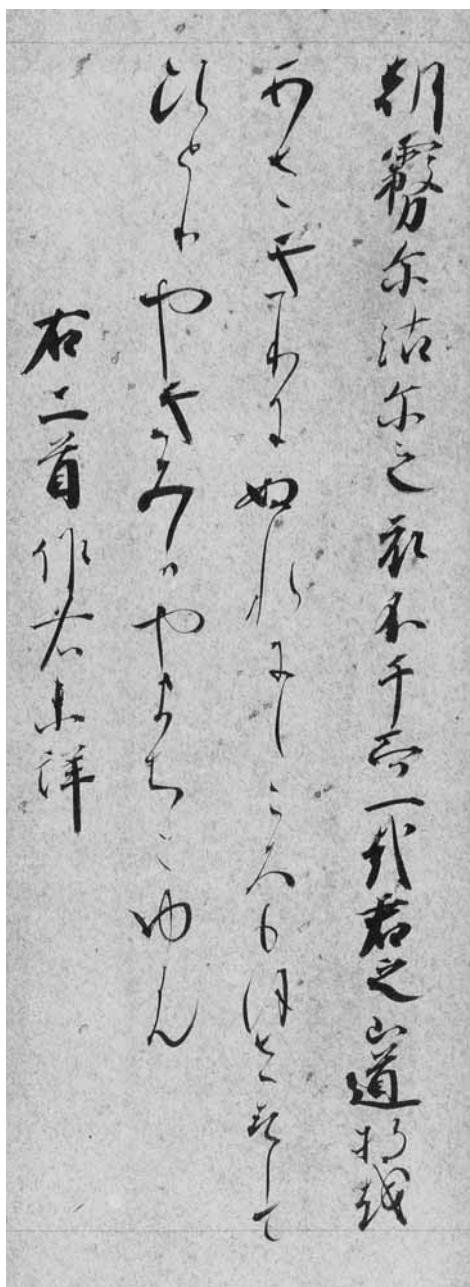
暑い中たくさんのお客様にご来場いただき感謝に堪えません。ありがとうございました。簡単ですが報告とさせていただきます。



古筆鑑賞

271

藍紙本万葉集 (伝 藤原公任筆) ①



〈よみ〉朝霧^⑧尔^⑨沾^⑩尔^⑪之衣不干而一哉^⑫君之山道将越^⑬／あさぎり^⑭にぬれにしころもほさずして^⑮／ひとり^⑯やきみがやまぢこゆらむ^⑰／右一首^⑱
作者未詳。

(掲載図版・70%に縮小。原寸にするには143%拡大)

古典鑑賞

497

孔子廟堂碑 (虞世南) ①



微臣屬書東觀。預聞／前史。若乃知幾其神。惟睿作聖。玄妙之境。

(掲載図版・70%に縮小。)

原寸にするには143%拡大)

特別昇段級試験

一、しめきり日 9月15日(火)

秋季は、作品募集を次のようにいたします。

漢字 一種、二種、三種
かな 一種、二種
漢字条幅 一種、二種
かな条幅 一種、二種、三種
ペン字 一種、二種、三種
かな、漢字条幅の三種は、春季募集となります。

二、応募資格

・一人で幾つの部にも応募できる。

・第一種

現段級が特級、10級、新規

・第二種

現段級が初段、3級

(4、10級の方は受験できない)

・第三種

現段級が準師範、秀級

(優級以下の方は受験できない)

三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧字体どちらでも可)

※漢字・かな・漢字条幅・かな条幅の臨書作品は、6月号48、53ページの写真掲載の中から(指定文字数)を臨書。

漢字部

半紙、たて長に使用

第一種 (1枚)

楷 臨書 高貞碑 (掲載部分から5文字を臨書)

第二種 (楷・行 計2枚)

楷 創作 暗飛螢自照 (杜甫)

(暗きに飛ぶ螢は自ら照す)

行 臨書 集字聖教序 (掲載部分から12文字を臨書)

第三種 (楷・行・草 計3枚)

楷 臨書 雁塔聖教序 (掲載部分から細字24文字を臨書)

行 創作 竹涼、侵臥内

野月、満庭隔 (杜甫)

(竹涼臥内を侵し野月庭隔に満つ)

草 臨書 十七帖

(掲載部分から6文字を臨書)

かな部

半紙、たて長に使用

・料紙可、各臨書は料紙を裁断して貼り付け可。

・かな部創作・臨書はともに落款は印のみ可。

・かな・漢字の変更自由。

第一種 (臨 1枚)

臨書 高野切第三種

(半紙1枚に2首を臨書)

第二種 (臨・創 計2枚)

臨書 関戸本古今集

(半紙1枚に全てを臨書)

創作 音もせで思ひに燃ゆる蛸こそ鳴く虫よりもあはれなりけれ

(源重之)

漢字条幅部

小画仙紙半切、たて長に使用

第一種 (1枚)

(楷または行)

創作 水宿鳥相呼

(水に宿る鳥は相呼ぶ)

第二種 (楷・行 計2枚)

楷 臨書 顔勤礼碑 (掲載部分から14文字を臨書)

行 創作 草木百年新雨露

車書萬里舊山川

(草木百年新雨露車書萬里旧山川)

かな条幅部

創作は小画仙紙半切をたて長に使用(料紙可)

臨書は半紙を横長に使用

・かな条幅部の創作・臨書の落款は印のみ可。

・創作は、かな・漢字の変更自由。

第一種 (創 1枚)

創作 露涼し夜と別るる花のさま

(石井露月)

第二種 (創 計2枚)

創作 松かげに鶉はらばへる暑さかな

(芥川龍之介)

創作 我が舟は比良の湊に漕ぎ泊てむ

沖へな離りさ夜ふけにけり

(高市黒人)

第三種 (臨・創 計3枚)

臨書 関戸本古今集

(半紙横1枚に全てを臨書)

創作 旅寝して香わろき草の蚊遣哉

(向井去来)

創作 吹く風の涼しくもあるかおのづから

山の蟬なきて秋は来にけり

(源実朝)

→ 課題を変更してあります。

ペン字部

はがきの大きさ40×10(白紙、黒インク使用)

夜熱依然として午熱に同じ

門を開いて小立す月明の中

竹深く樹密なり虫鳴く処

時に微涼有り是れ風ならず

楊万里の詩 ○○書

第一種 楷書 (1枚)

第二種 楷・行 (計2枚)

第三種 楷・行・草 (計3枚)

四、名前のかき方

◎どの部も落款を入れる。

・創作は○○書、臨書は○○臨と書く。

・ただし、かな部・かな条幅部の創作・臨書いずれも印のみ可。

五、受験料

第一種 一、五〇〇円

第二種 三、〇〇〇円

第三種 四、五〇〇円

◇納入は昇段級試験用振替口座、または現金書留でお願いします。

六、審査結果と昇級

成績に応じて、次の通り昇段級させる。

第一種は、最高秀級まで

第二種は、最高二段まで

第三種は、最高師範まで

七、応募手続

1 出品票はバーコード出品券を使用し、9月号(78号)の段級を記入(昇試出品券を貼付欄に貼る)。

一種は作品の右下に貼る。二種・三種は1番上のみ、作品の右下に貼る。

2 作品2枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりとする。

3 団体支部の方へは事務所から応募書類一式を送付する。

4 個人で受験希望の方は、はがきで申し込む。

5 受験申込み締切は8月20日(休)

(申し込み期限を過ぎましたが、希望者は大至急申し込みを)

・申し込み先

〒101-0031 千代田区東神田1-16-17

東神田プラザビル三階

公益財団法人 書道芸術院

書道芸術編集部特別昇段級試験係

応募書類は9月1日以後に整理

発送。送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。

競書出品規定

※規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※半紙は縦使用に限る。

※落款(印のみ可)を入れる。

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

1、締切日必着厳守

2、月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない

3、月別出品券のコピーは不可

4、(一)初めて出品のときは「10級と書く(二)課題違反」「落款なし」等の違反

作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

※▲印段級誤記入

※△印作品審査後着

*段級欄に記入する数字は、

級位は算用数字1、2、3...

段位は漢数字 初、二、三...

で書いてください。

*級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

●規定部(自分の段・級で出品)

部門	字	漢	な	か	漢字条幅	かな条幅	ペン字
段級位	初段以上	秀級以下	初段以上	秀級以下	初段以上	10級	10級
用紙	半紙	半紙	半紙	半紙	半切	半切	はがき
書体・内容	創作(書体自由)	創作(楷書)	創作	臨書	創作(書体自由)	創作	書体自由

・かな、かな条幅部門は料紙使用可。

●研究部(掲載課題の臨書)

部門	用紙	内容
漢字研究	半紙	文字数自由
かな研究	半紙	歌一首以上を書く、全文も可

・掲載部分以外の箇所は不可。
・かな研究部門は料紙使用可。
・料紙貼りつけ可。

●自由部(段、級によらないもの)

部門	用紙	内容
前衛書	半紙	創作
現代書	半紙	創作
実用書	左記	書体自由

△実用書部門・出品規定▽

○用紙 半紙横 $\frac{1}{2}$ 24.5×16.5 cm、
B5コピー用紙 26×18.1 cm
も可。

○課題 掲載語句を書く。

○小筆、筆ペン、サインペンも可。

●特別研究部

・大作または小品のどちらかに1点出品する。

・詳細は出品票の掲載ページを参照のこと。

☆審査委員の部について

・「漢字部門初段以上」と「かな部門初段以上」に審査委員のみが出品できる部を設ける。

・バーコード出品券の段級欄に「審査会員」と記入する。

・通常の競書との重複出品は不可。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-1954

FAX(03)3862-1957

ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願いいたします。(土・日・祝日は休み)

送料

1か月の購読部数が
1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上は	送料免除

令和八年 八月二十五日印刷
令和八年 九月 一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 下谷 洋子

発行所 株式会社 リンクス
小沢写真印刷株式会社

印刷 公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

電話(03)3862-1195 4
FAX(03)3862-1195 7

振替 0015014113500587
http://www.links.co.jp/shogi/